

會務報告

第 20 卷 第 7 號 昭和 12 年 7 月

役員會記事

第 7 回理事會 (昭 12. 5. 17)

出席者：大河戸會長，新井副會長，宮本，金子，關，沼田，後藤各理事，柴原書記長，小野寺庶務主任，糸川編輯主任

報 告

1. 關西支部役員會議事を報告す。
2. 5月7日來朝せる中華民國技術官汪胡楨君外7名一行の我國土木事業視察斡旋に關し報告す。
3. 5月13日東亞鐵道研究會より本會事業資金として7000円の寄附あり之を受領せり。而して本資金の使途は東亞部の事業其他同會申出の趣旨に據ることとす。

議 事

1. 東京帝大工学部矢島祐利君より申出に係る故寺田寅彦博士の講演速記録(大正12年11月2日土木學會帝都復興調查委員會席上講演「旋風に就て」)を同博士全集中に収録の件は承認することとせり。
2. 第12回オリンピック東京大會々場の敷地決定促進方を別紙(省略)の通り建議することとせり。
3. コンクリート調査委員會委員に佐藤寛政君を追加依頼することとせり。
4. 鋼橋示方書調査委員會委員に稻葉權兵衛君を追加依頼することとせり。
5. 6月中役員會，委員會その他開催日を別紙(省略)の通りとせり。
6. 常議員菊池英彦君より常議員辭任(地方へ転勤に依る)の届出でありたり，而して常議員1名の補缺は次期通常總會までその儘とすることに申合せり。
7. 入退會の件
西滋君を會員に，淺野石夫君外35名を准員に，阿宗保治君外55名を學生員に入會，准員安藤四良君外124名を會員に転格承認せり。

第 8 回理事會 (昭 12. 6. 7)

出席者：大河戸會長，辰馬副會長，宮本，金子，關，沼田，後藤各理事，柴原書記長，小野寺庶務主任，糸川編輯主任

報 告

1. 日本動力協會參與員に本會々長を推薦せられたり。
2. 關西支部臨時及第3回役員會議事報告せり。
3. 故古市男爵記念事業會へ5月26日1000円を寄附せり。
4. 在英國廻越一三君より第2回萬國橋梁構造物會議報告及其他關係書類の送附ありたり。
5. 伊能忠敬翁遺物保存館建設寄付金は6月3日までに436円ありたり，本寄附金募集の締切期日を7月中旬とし地方委員に對し寄附取纏めに就き依頼狀を出すこと。
6. 中華民國技術官一行日本視察の經過に就き報告せり。
7. 6月3日の映畫會には約320名の來會者ありたり。

議 事

1. 次の通り各種委員會委員及幹事を追加依頼することとせり。
土木學會財政調査委員會委員 宮長 平作君
土木學會文化映畫委員會委員 五十嵐醇三君
オリンピック大會土木施設調査委員會委員 岩澤 忠恭君
鋼橋示方書調査委員會幹事 齋藤 義治君
2. 用語調査委員會に於て調査中の英和工學辭典改訂編纂の爲臨時囑託として次の2名を依頼することとす。
志村一雄君(東京府) 石川禎一君(鐵道省)
3. 東京市役所都市計畫課より申出での會誌は寄贈することとせり。
4. 發明考案者推薦に關しては編輯委員會に諮問することとせり。
5. 各種委員會に對し調査事項促進方を依頼することとせり。
6. 地方委員招待會開催に就き次の申合せをなせり。

内務省，鐵道省關係地方委員が會議の爲上京したるときに於て午餐會を開催すること。

内務省，鐵道省關係外の東京在住(神奈川，千葉，

埼玉縣も含む) 地方委員は總會當日の晚餐會に招待すること。

7. 特別員入會勧誘に就ては財政調査委員會よりの報告に基き原案の通り勧誘することとせり。

8. 關西支部管内特別員募集に伴ふ支部補助金は年額會費の2分の1を補助することに申合せり。

9. 東北支部を仙臺市に設置方別紙の通り創立發起人連署にて申請ありたり依て審議の結果次の如く申合せをなせり。

1. 支部設置を承認すること。
2. 本部交附金は増加會員を200名と豫想し年額600円とすること、若し増加會員200名に満たざる場合は來年度に於て按分にて減額すること。

但し本年度は半ヶ年分300円を交附すること。

10. 中國水利工程學會(南京)と會誌を交換することとせり。自第8項至第10項は常議員會に諮ること。

土木學會東北支部設立申請書

別紙設立趣意書に依り土木學會東北支部を仙臺市に設置致度關係書類添付此段發起人連署及申請候

昭和12年6月1日

土木學會東北支部創立發起人 (順不同)

河 合 清	渡 邊 時 敏
萩 原 俊 一	大 石 巖
木 村 又 治	中 島 忠 次
富 田 伍 鹿	石 田 清
水 澤 勳	清 水、一 郎
中 原 藤 三 郎	津 田 康 吉
田 淵 壽 郎	三 島 卯 四 郎
平 山 復 二 郎	中 村 正 照
藤 田 金 次 郎	堀 山 力 熊
金 澤 節	内 田 柰 郎
太 田 誠 一 郎	山 崎 慎 二
結 城 朝 恭	今 野 彦 貞
神 門 久 太 郎	青 木 信 夫
岡 田 實	小 坂 忠 一
平 松 吉 次	高 田 廣 治
佐 藤 忠 三 郎	熊 田 隆 治
吉 川 宥 直	

右代表 鶴 見 一 之

土木學會長

大 河 戸 宗 治 殿

土木學會東北支部設立趣意書

土木學會は創立以來二十數年を関し非常なる發展を

なし東北地方に於ける會員も三百餘名を算へ今や官私各方面の土木事業にして本會員の關與せざるものなきの盛況を見るに至れり

由來本會は會誌を發刊せるの外隨時講演會又は見學旅行等を開催し會員の知識向上と意志疏通を図り或は調査會を設けて重要事項の調査研究を遂げ斯界に貢獻する處少からざるものあり

然れ共之等講演會見學旅行等は主として東京附近を中心として開催せられし關係上地方會員は之に参加するの機運に乏しきのみならず本會を利用して諸般の調査研究を爲し得ざる實情にあるは甚だ遺憾に堪へざるところなり關西に於ては如上の不利不便に鑑み有志相謀り昭和2年本部の認可を得て關西支部を大阪に設立せり爾來十有餘年支部設立に依る會員の増加は延いて本會の隆盛に資し會員間の親睦に又一般土木の知識向上に貢獻せる事多大なりしは萬人の認むる處にして此の隆盛は遂に本春の京都に於ける學術大會となれり

我東北の地に於ては今や國策として採擇せられたる東北振興事業着々と進捗しつゝあり然もその大部分は土木事業にして我等土木技術者の活躍を要するや切なるものあり此の時に當りて我土木學會東北支部を設立し兎角不振廢の東北地方土木事業の振興に資するは最も緊要にして有意義なるは信じて疑はざるところなり

繼つて他の學會の實状を見るに機械學會、電氣學會、金屬學會等は夙に當地に支部を設置し夫々其の機能を發揮せるに獨り土木學會に其の開設なきは實に本會としてのみならず各般の事業遂行上にも遺憾の至りに堪へざる處なり

尤も當地方に於ては土木學會と前後して東北技術者の集會機關として『煙突會』を結成し隨時一堂に相集ひ胸襟を開きて談數刻に及ぶを常とし其の古き歴史と親しみ多き煙突會の名と會同の券圍氣とは全く他の集會の追隨を許さざるものありたるも右は主として親睦交誼の機關たるに止まるを以て百尺竿頭更らに一歩を進め各位の熱誠なる御賛同と御支援のもとに東北6縣の同人を遍く糾合し來る6月支部の設立を達成せむとす

土木學會東北支部規定

第1條 仙臺に支會を置き之を土木學會東北支部と稱す

第2條 支部に支部長を置き支部に關する一般事務並に左の事業を委嘱す

講演會、見學旅行、土木に關する研究調査前項以外の事業に就ては會長の承認を受くる

を要す

支部長は本會役員會に出席し意見を述ぶる事を得

第3條 支部長は左の縣在住の會員互選に依り會長之を委嘱す、福島縣、宮城縣、岩手縣、青森縣、秋田縣、山形縣

第4條 支部長の任期は1ヶ年とす

第5條 支部に左の役員を置き支部長之を委嘱し會長に報告するものとす。

商議員若干名、幹事長1名、幹事若干名

第6條 支部長は毎年10月に於て翌年1月より12月に至る1ヶ年收支豫算を調製し會長の承認を受くべし

第7條 支部長は毎年1月10日迄に前年中の收支決算並に事業一般に付會長に報告し收支決算に付ては其の承諾を受くるものとす

第8條 支部長は支部役員の数、任期其の他に關する内規を作製し會長の承認を受くるものとす

附 則

第9條 第1回の支部長は發起人會の選舉に依り會長之を委嘱す

土木學會東北支部内規

第1條 本支部に支部長の外左の役員を置く

商議員10名、幹事長1名、幹事2名

第2條 商議員は土木學會東北支部規定第3條に準じ選舉に依り支部長之を委嘱す。

幹事長は商議員之を兼務する事を得

第3條 商議員の任期は2ヶ年とし毎年其の半数を改選し重任する事を得ず、幹事長並に幹事の任期は定めず

役員に缺員を生じたる時は役員會に於て之を補選する事を得

第4條 大會は毎年1月又は其の他必要に應じ之を開く役員會は支部長に於て必要と認めたる場合之を招集す

支部長は退任後と雖も役員會に出席して意見を述ぶる事を得

第5條 役員會の議事は役員5名以上出席するに非ざれば議決をする事を得ず

附 則

第6條 第1回の商議員の選舉は第2條を準用し發起人會に於て之を行ふ

第7條 第1回の商議員の半数は其の任期を昭和13年1月大會迄とす

第8條 幹事及幹事長は宮城縣在住者とす

第9條 商議員は各縣廳より1名宛及鐵道局、內務省土木出張所、高等工業學校、其の他在仙者より各1名とす

土木學會東北支部豫算書

収入の部

金 750 円也	本部 交付金
金 50 円也	雜 收 入
計 金 800 円也	

支出の部

金 450 円也	事 務 費
内 譯	
金 200 円也	事務委託費
金 150 円也	備品消耗費
金 100 円也	竝 通 信 費
金 350 円也	會 議 費
内 譯	
金 50 円也	事 業 費
金 100 円也	大 會 費
金 100 円也	講 演 會 費
金 50 円也	見 学 會 費
金 50 円也	座 談 會 費
金 50 円也	講 演 會 費

東北6縣土木學會々員動靜

東北6縣に於ける會員は次表の通りなるが今後支部設立と同時に責任分界を協議して夫々少くとも下欄記入の通り新入會を勧誘する見込なり

記

區 別	現 在 員				増 加 豫 想				總 計			
	會 員	准 員	學生員	計	會 員	准 員	學生員	計	會 員	准 員	學生員	計
鉄 道 省	23	37		59	18	3		21	40	40		80
内 務 省	20	16		36	10	14		24	30	30		60
福 島 縣 廳	6	5		11	13	14		27	19	19		38
須 賀 川 町 役 場		1		1						1		1
電 力 會 社	7	4		11		3		3	7	7		14

諸 其 小	負 人 他 計	1 3 17			1 6 30				1 3 30			1 6 60	
宮 仙 市 請 電 其 小	城 縣 市 役 工 立 負 會	7 5 7 2 3 24	13 7 1 1 2 25		20 13 37 1 1 5 79	13 2	7		20 2 30 30 52	20 7 7 1 1 2 39	20 7 7 1 1 2 32	40 14 67 1 3 1 5 131	
岩 縣 請 其 小	手 立 負 人 他 計	7 1 8	13 1 16		20 1 4 26	12	6		18 18 20	19 1 24	19 1 4	38 1 4 44	
青 八 其 小	森 戶 市 役 工 立 負 會	5 1 1 17	19 2 21		34 1 3 38	4			4 4 21	19 1 2 21	19 1 3 21	38 1 3 42	
秋 縣 電 請 其 小	田 立 力 負 會	8 2 1 3 14	9 1 3 1 14		17 1 5 4 28	11	10		21 21 25	19 1 3 24	19 1 5 24	38 1 5 4 49	
山 縣 電 請 其 小	形 立 力 負 會	9 1 1 1 12	8 1 1 1 10		17 1 2 2 22	10	11		21 21 22	19 1 1 21	19 1 2 21	38 1 2 2 43	
合	計	134	154	30	318	93	68	30	191	227	222	60	509

第 4 回常議員會 (昭 13. 5. 17)

出席者：大河戸會長，新井副會長，小澤，小宅，金子，蒔，河口，後藤，關，高橋，鶴田，沼田，宮本各常議員
田邊前會長，柴原書記長，小野寺庶務主任
糸川編輯主任

報 告

1. オリンピック大會土木施設調査委員會委員に今井哲君，岡田信次君，五十嵐醇三君，(幹事)を追加依頼せり。
2. 關西支部役員會議事を報告す。
3. 5月7日來朝せる中華民國技術官汪胡楨君外7名一行の我國土木事業視察幹旋に關し報告す。
4. 5月13日東亞鐵道研究會より本會事業資金として7000円の寄附あり之を受領せり(受入科目を事業資金とす)。
5. コンクリート調査委員會委員に佐藤寛政君を追加依頼せり。
6. 鋼橋示方書調査委員に稻葉權兵衛君を追加依頼せり。

7. 6月中役員會，委員會その他開催日別紙(省略)の通りとす。

8. 入退會別紙(省略)の通り承認せり。

議 事

1. 第12回オリンピック東京大會々場の敷地決定促進方を別紙(省略)の通り建議することとせり。
2. 三秀舎申出の會誌印刷料金値上の件は承認することとせり。
紙質を従來より5斤落とすること。
第23卷第6號より總金額の5歩を増額すること。
3. 常議員菊池英彦君辭任に依る補缺は次期通常總會まで補缺の儘とすることとせり。

總 務 部 記 事

第 3 回土木學會防空施設研究委員會 (昭 12. 5. 12)

出席者：山口，河口，内田，福田，藏重，森田，中村，鎌田，岩崎，瀧尾，各委員 稻葉，松井各幹事，宮本理事，小野寺庶務主任，糸川編輯主任

協議事項

1. 宮本理事委員長代理として議事を進行せり。
2. 稲葉幹事より第3部(分科)の研究項目案の提示あり。之に多少の修正を加へ(別紙参照)次回以後各項目につき研究をなす事とせり。
3. 「分科」なる名稱は軍部のものと混同のおそれあるを以て「部」となす事。

例へば「第2分科」を変更して「第2部」となす。

4. 第1部(分科)幹事案は土木に關する項目少きを以て避難の爲の道路系統、空地の配置等考察の範圍を擴大する事とし、幹事に於て原案を作製する事。

猶右に關し東京に於ける電柱整理案を幹事より説明すること。

5. 第2部(分科)に關する、對策、施設につき東京に於て調査研究し一部實施せる所あるを以て、幹事より説明を聴取すること。

第3部 研究項目

構造物の遮蔽、偽裝、補強

1. 空襲に對して考慮すべき土木施設

- (1) 鉄道： 停車場、操車場、貨物操車場、市街高架線、地下鉄道
- (2) 港灣： 岸壁、倉庫、防波堤、船渠
- (3) 河川： 堤防、水門及閘門
- (4) 道路： 橋梁、電柱及架線
- (5) 上水： 水源設備、送水設備、淨水設備、配水設備
- (6) 下水： ポンプ場
- (7) 發送電： 發電所、變電所、送電線
- (8) 其他諸設備： ガスタンク、油槽、無電設備

2. 遮蔽裝置を設くべきもの

各設備に適する遮蔽の種類及方法

3. 偽裝裝置を設くべきもの

各設備に適する偽裝の種類及方法

4. 補強すべきもの

補強の程度及その方法

第3回企業委員會議事 (昭13.5.14)

出席者： 米元委員長、青木、五十嵐、糸川、太田尾、奥田、加藤、佐野、須之内、瀧山、徳善(幹事)、服部、町田、松田各委員、榎本理事、柴原書記長、小野寺庶務主任

議 事

1. 米元委員長より次の提議あり全會之を了承す。
 1. 企業委員會にて採擇せる特定の題目につき必要

の場合は之が概要を調査する爲専門委員を依頼し幹事と協力して之が進捗を計ること。

2. 理事会よりの諮問の件

『工手学校程度卒業者にして入會する者は卒業後5ヶ年までは學生員として之を認め從て學生員と同等の會費を徴收することの研究』

2. 以上理事会より諮問ありたる會員増加に關する案は委員會幹事案と併せて考究すること。

3. 柴原書記長より前回議事報告の後第2回委員會議事第2項第2節に基き提出せられたる次記幹事案を議題とし其の協議に入る。

會員増加の方法に關する幹事案

1. 入會勧誘に努力すること

(イ) 同窓會名簿を整理し勤務先上司に對し入會勧誘を依頼すること

(ロ) 支部設置により地方會員の増加を惹ること

(ハ) 大学、専門學校等の學生課主任に對し會長之を依頼し在學生の入會に努力せしむること

(ニ) 前項以外の工學校等に對しては生徒の卒業期に際し前項同様の取扱ひをなし入會員に對しては相當期間學生員の待遇を與ふること

2. 転格に努力すること

准員 3000名中4割は會員資格を有す、之等准員に對し転格を勧誘すること

3. 特別員の入會を勧誘すること

財政調査委員會にて實施中なり

4. 事務員2名増員のこと

以上の事務を取扱ふ爲め職員2名を増員す

以上幹事案の第4項は別として第1~3項までを積極的に研究し進めて行くこととし審議に入る。

各委員の意見交換ありたるが、結局之を綜合するに委員大多數の意向は會員の増加を図る爲には會員唯一特典たる會誌の改良を行ひ財政上支障なき限り會費の低減を計るにありとの結論に到着せんとするものゝ如し。

尙理事会よりの諮問案に付ては定款改正を要すべきものと認めらるゝを以て理事と打合の要あり答申を留保することとせり。

4. 学制改革案(第2回委員會第1項)

太田尾委員より学制改革案に就き改めて説明ありたり。

5. 懸賞募集の件(第2回委員會第2項第1節)

徳善幹事に於て萬國博覽會事務當局に意見を徴したる後改めて協議することとす。

6. 會誌改良に関する件(第2回委員會第2項第3節)

會誌改良の具体案に就ては曩に振興委員會第3部會より會長に提案せる事項を參考として研究することとし該案を複製して各委員に配布することとす。

第4回オリンピック大會土木施設調査委員會(12.5.26)

出席者: 岡野委員長, 古川, 金森, 黒田, 井上(代理加藤田), 藤井, 沖鹽, 岡田各委員, 磯谷, 五十嵐兩幹事, 小野寺庶務主任

1. 小野寺庶務主任よりオリンピック大會々場敷地決定の促進に關する建議提出の件に關し経過報告あり(5月15日建議書發送)。
2. 本委員會に於て取り扱ふべき研究事項に就き磯谷幹事より説明あり決議事項3の如く決定す。
3. 金森委員よりオリンピック マラソン コースに就き發議あり。

決議事項

1. 第19回オリンピック東京大會構築委員會に土木技術家を参加せしむべきことを建議すること。
2. オリンピック マラソン コースとして新京濱國道を採擇すべきことを建議すること。
3. オリンピック關係施設研究事項

1. 競技場排水, 2. 同施工基面, 3. 工事施工の順序: a. 掘鑿, b. 排水, c. 基礎, 4. 街路の配設, 5. 街路の幅員, 6. 廣場, 駐車場, 交叉點, 7. 鉄道, 8. 一般交通計畫

第75回講演會(昭12.5.28)

會 場: 帝國鐵道協會

演題及講演者: 歐米土木事業視察談

内務技師 山下輝夫君
歐米の橋梁を見て
大阪市技師 堀 威夫君

來會者: 100名

講演終了後同所に於て有志晚餐會を開催せり。

出席者: 24名

第76回講演會及映畫會(昭12.6.3)

會 場: 帝國鐵道協會

講 演: 最近に於ける除雪作業に就て

鐵道技師 山田二三男君

映 畫: (1) 白魔征服(保線=ユース)2巻

説明 鐵道技師 青木武造君

(2) 君が代の由來 トーキョー 4巻

(3) 日ノ影線網ノ瀨, 鉄筋コンクリート拱橋架設工事實況 トーキョー 2巻

(4) 征空 15000キロ トーキョー 3巻

(5) 朝日世界=ユース 英國皇帝陛下戴冠式盛儀その他 2巻

來會者: 320名

映畫終了後同所に於て有志晚餐會を開催せり。

出席者 20名

經 理 部 記 事

第5回土木學會財政調査委員會(昭12.5.25)

出席者: 阿曾沼, 衣斐, 大竹, 佐藤, 萩原, 堀各委員, 金子經理部長, 柴原書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任

議 事

1. 前回引き続き特別員入會勸誘先の選定に就き別紙名簿(省略)に依り審査し, 電氣事業關係36社, 軌道關係25社, 市役所24箇所(名簿の通り)及材料關係は先以て次の15箇所を選定勸誘することに決定せり。

材料關係

川崎鐵網工場, 東洋鐵網製造株式會社, 白石基礎工業合資會社, 石川島造船所, 横河橋梁製作所, 田原製作所, 櫻田製作所, 利根製作所, 大和工作所, 宮地鐵工所, 港灣工業株式會社, 服部時計店, 玉屋商店, 三笠商店, 中村淺吉商店

2. 特別員入會勸誘書狀及其の土木關係者に對する依頼狀を別紙(省略)の通り決定せり。
3. 宮長平作君を委員に追加することとす。

編 輯 部 記 事

第4回會誌編輯委員會(昭12.6.1)

出席者: 關委員長, 大岡, 岡崎, 廣瀬, 安宅, 菊池, 野坂, 太田尾各委員, 糸川, 中川各編輯囑託

協議事項

1. 第23巻第6號所載の工事寫眞, 彙報, 時報, 抄録に對する謝禮を決定せり。
2. 第23巻第7號登載論文を下記の如く決定せり
講 演: 歐米土木事業視察談(會.工.山下輝夫)
歐米の橋梁を見て(會.工.堀威夫)
論說報告: 交番応力を受くる部材の断面積決定法に就て(會.工.博.田中豊), 安治川河底隧道(會.工.福留並喜), セメント軟練モルタル試験法に就て(會.工.野坂孝)

忠), 鉛直線を軸とする渦の相似(會. 工. 大坪喜久太郎), 小河内貯水池に就て(會. 工. 小野基樹)

彙 報: 第 2 大谷發電所建設工事概要(會. 大政茂市)

時 報: 都市計畫關係決定事項, 中央電氣板倉發電所計畫概要, 中部電力豐岡發電所概要

抄 録: 臨港旅客驛(比田), 堰堤の嵩置工事(中谷), 連続熔接軌條の緊縮に就て(古賀), 砂を填充せる 堅排水坑に依る軟弱路盤上の盛土の安定(中谷), 滑動防止の氷のアーチダム(島山), イエナ拱橋の擴張と東京通立立交叉(藤田), 曲げモーメントに對して等強断面の桁(住友), Main 河に架けた連続桁橋(牧野), 大型碎石を用ひたコンクリート(河上), 熔接鋼桁の延びの測定と強度研究(山内), ニューヨークの立交叉構造物(共-1)(中村), 道路材料新試験設備(森), 足場を用ひず施工せるコンクリート桁橋(前島), 積分を用ひないで梁の撓を求むる法(前島)

新刊紹介: 砂防工学(蒲学著), 海工下巻(君島八郎著)

3. 第 23 卷 第 8 號登載論文を下記の如く決定せり。

論説報告: 航空寫眞測量に於ける被覆面積に就て(會. 工. 林雅雄), 上水流に於ける二重濾過の研究(會. 工. 博. 島崎孝彦), 仙山線仙山隧道直轄工事に就て(會. 工. 佐藤忠三郎, 會. 工. 加納儉二) フィーレンデル構橋の實用計算法に就て(會. 工. 博. 熊部屋福平), 國有鐵道列車速度昂上と線路改良の動向(會. 工. 岡部二郎)

抄 録: 連続熔接軌條の軌道狂ひに對する安全性に就て(鈴木), 軌道の砂利添加問題に就て(鈴木), 主働土圧力及受働土圧力の図式解法に對する一方法(瀧上)

4. 第 1 回年次學術講演會論文審査の状況を報告せり。

5. 文獻紹介欄設置に就てはその方法に就て更に次

回審議のこと。

調査部記事

第 6 回用語調査委員會報告 (昭 12. 5. 20)

出席者: 中川委員長, 樫部(代理山内), 板倉, 菊池, 松尾, 小宅, 岡部(代理稻穂), 福田, 町田各委員, 糸川幹事

1. 協議事項

今回改訂すべき英和工学辭典の体裁に就き 4 種の内容見本刷を作製せるものを配布し, 之を検討せる結果次の定き決定を見たり。

2. 決定事項

- (イ) 内容体裁は別紙 No. 4 を採用すること, 何この他に以下の如き希望條件を附加すること。
- (ロ) 譯語中, 意義を全く異にする用語に對しては前回に於て (1), (2) 等を附することとせるも, 之を廢して單に (;) を以つて區別すること。
- (ハ) 用語はすべて平假名とし, 外來語に對しては片假名を用ふることは前回通りとし, 譯語の後の「ピリアド」は除くこと。
- (ニ) 2 語以上よりなる英語の排列順序は, すべて見出語より初まるものを先にし, 然らざるものは後にすること(例へば abutment なる見出し語に就ては a. pier を先に並べ, splayed a を後にする)。
- (ホ) 「ハシラ」(頁の欄外にありて當該頁中の語の範圍を示すもの例へば abe-are の如き) は奇數頁にありては上右端, 偶數頁にありては上左端に配置し, 頁を示す數字は頁の上中央とす。
- (ヘ) 其の他活字に就て研究を要すべき個處あるを以つて幹事に一任のこと。
- (ト) 以上に決定せる要綱により, 次回までに奇, 偶數頁の見本を作製し委員に諮ること。
- (チ) 辭典編纂のための原稿用紙を作製する必要があるを以つて, 幹事に於て考究すべきこと。

3. 次回は 6 月中旬とし, それまでに「E」の部を審査の上, 主査まで提出のこと。

4. 日本工學會工業用語統一調査委員會に於ては既に第 3 次決定を見たるを以つて之等の中, 土木用語の選定及之が排列に關しては本會代表福田委員に一任することとす。

5. 現在迄 (12. 5. 20) の用語調査進行状況は次の如くなり。

	部 別	語 數
福田委員	A B	924 語
松尾 "	A.B.C.D.	381 "
樞部 "	A.B.C.D	238 "
野口 "	A.B.C.D.E.	231 "
板倉 "	A.B.C.D.	134 "
嶋野 "	A.B.C.D.E.F.	109 "
菊池 "	A.B.C.D.	107 "
岡部 "	A.B.	154 "
小宅 "	"	138 "
町田 "	A.B.C.D.	132 "

第 11 回 眞工事標準契約書調査委員会 (昭 12.5.21)

出席者： 菅野，近藤，堀尾，宮長各委員，小野寺庶務主任

議 事

1. 契約書原案に依り第 24 條より第 31 條まで (原案全條項) の審議を了せり。
2. 第 1 讀會に於て審議した修正案を印刷に付し各委員に配布すること。
3. 各委員は配布を受けた修正案に基き第 2 讀會開催のときまでに意見を持寄ること。
4. 次回を大体 6 月 15 日開催することとす。

第 12 回 鋼橋方書調査委員会 (昭 12.6.2)

出席者： 田中委員長，沼田調査部長，稻葉，瀧尾，尾崎，成瀬，西岡，小澤，奥田各委員，友永，齋藤兩幹事，糸川編輯主任

審議事項

1. 前回審議事項に付き再審議あり
許容応力に對し「Existing Bridge に對しては引張り許容応力を 1400 kg/cm^2 と決す」の項に對し橋種，部材等につき考慮の餘地あり一時保留する事とす。
2. 長柱式に對し友永幹事より各比較表示図につき説明あり大体に於て現行規定を適用する事とす。
但し Euler 公式適用範圍現行 $100 \leq \frac{l}{r}$ とせる範圍を $120 \leq \frac{l}{r}$ なる範圍にしたる場合につき次回審議決定する筈
3. 既設計鉄道橋梁に對する地震力の影響についての計算結果につき説明あり大体次の如き條文を附加する事とする，即ち「地震力は震度を水平方向に 0.2，垂直方向に 0.1 とし，地震力は死荷重及等分布活荷重 (但し衝撃を考慮せず) に對し作用するものとし，この場合許容応力を主構に對し 60%，横構及對傾構に對し 100% 増す事を得」尙構脚に對する地震力は次

回審議する事とす。

4. 既設計鉄道橋の繫飯の厚さ調査の結果
大体の標準として次式を條文に入れる事とす。

$$t = \frac{s}{h} \times 0.23 \geq 1.2 \text{ cm} \quad \text{鉄道橋}$$

$$\geq 1.0 \text{ cm} \quad \text{公道橋}$$

但し t : 繫飯の厚さ (cm)

s : 端柱の軸力 (t)

h : 端柱腹飯高 (cm)

5. 第 16, 18, 22, 24, 25, 26 條は一部字句改正
6. 第 17 條副応力に付きては審議せるも決定案を見ず後日審議する事とす。

7. 第 19 條は一部字句改正及 $\frac{l}{r}$ を 120 とありしを 160 と改む。

8. 第 20, 21, 23, 23, 27 條の條文は次回迄に適當なる改正案を作成する事に決し友永幹事に委任す。

9. 第 28 條，第 29 條は原案のまま。

第 7 回 用語調査委員会 (昭 12.6.9)

出席者： 中川委員長，樞部 (代理山内)，福田，野口，嶋野，小宅，町田各委員 糸川幹事

協議並に決定事項

1. 前回に希望條件として附加せる項目を考慮せる内容見本刷を今次の英和工学辭典の体裁として決定せり。
2. 前回福田委員に依嘱せる日本工學會工業用語統一委員會の第 3 次讀會選定用語中，土木關係用語として同委員の選定せる案に就き，逐一之が審議をなしたり。
3. 8 月は委員會休會に就き次回 (7 月初旬) までは F 及 G の部を審議，主査へ提出のこと。

東 亞 部 記 事

中華民國技術官一行招待會 (昭 12.5.28)

會 場： 日比谷 山水樓

出席者： 來賓，汪胡植，岡夫人，張倫官，萬 晉，許正禪，杜聯凱，劉念茲，王元頤 諸氏

主催，久保田東亞連絡委員會委員長，後藤東亞部長，山崎，岡田兩幹事，柴原書記長

久保田委員長より本會の目的達成のため協力を希望し，汪團長之に滿腔の賛意を表され懇談をなせり。

關西支部記事

臨時役員會 (昭 12. 5. 15)

出席者: 高西支部長, 島崎幹事長, 鮫島幹事, 寛, 有光, 奥中各商議員, 後藤前支部長, 山本主事

議 事

中華民國技術官汪胡楨氏一行の關西支部管内土木工事視察及觀光行程に就て協議せり。

臨時役員會 (昭 12. 5. 22)

出席者: 高西支部長, 柴田, 鮫島兩幹事, 岩崎, 寛, 有光(代海淵), 奥中各商議員, 近藤(泰)前商議員, 後藤, 永井, 坂本各前支部長, 山本主事

議 事

中華民國技術官汪胡楨氏一行の京, 阪, 神, 視察日程及歡迎プログラムを次の通り決定せり。

京都方面

3日: 京都驛着 都ホテル宿泊
4日: 都ホテル出發, 琵琶湖視察, 於琵琶湖ホテル, 土木學會關西支部長 招待午餐會, 琵琶湖ホテ

ル發 比叡山 於東山左阿彌, 京都市長歡迎晚餐會

5日: 都ホテル出發, 蹴上疏水, 京都帝大視察 於東大食堂土木學會關西支部長 招待午餐會, 京都市中都市計畫, 下水處理場視察, 嵐山

大阪方面

6日: 都ホテル出發 京阪國道ドライブ及淀川視察, 新大阪ホテルに入る 大阪歌舞伎座觀劇

7日: 新大阪ホテル出發, 大阪港視察於朝日ビル「アラスカ」土木學會關西支部長 招待午餐會 於大阪鶴屋大阪市長觀迎晚餐會

神戸方面

8日: 新大阪ホテル出發, 阪神國道ドライブ, 六甲登山 神戸港視察 於六甲ホテル神戸市長招待午餐會 於神戸菊水神戸市長歡迎晚餐會

以上

そ の 他 記 事

○昭和 12 年 5 月 31 日土木學會誌第 23 卷第 6 號を發行成規の手續を了し 6 月 1 日全會員に配布せり。

入 會 及 転 格 會 員

會 員 (入 會)

西 滋君 佐世陸海軍建築部

准 員 (入 會)

淺野石夫君 滿洲國水力電気建設局工務處
小幡寛二君 内務省下關土木出張所
大村製裘吉君 愛中州廳土木課
鬼窪三千雄君 内務省東京土木出張所
川原清君 四國中央電力會社
倉地稔君 日本製鐵會社
古閑新一君 内務省土木局第二技師課
酒井信男君 香森縣廳土木課
清水民三郎君 滿洲國水力電気建設局工務處

田中榮一君 海軍省建築局
田中淑遠君 東京市水道局擴張課
田邊一男君 日鉄八幡製鐵所
武秀雄君 海軍省建築局
戸田義郎君 愛媛市水道擴張事務所
馬鐘昇君 朝鉄鐵道局平塚鐵道事務所
橋本太助君 岡 城津鐵道事務所
原田敏郎君 青森縣廳土木課
藤下五郎君 中央電気會社

別所正夫君 東京市水道局下水課
松尾博茂君 京都府鴨川改修事務所
三島敬一君 滿鉄々道廳局輸送委員會
水野健三君 株式會社間風
山本芳男君 鐵道省下關改良事務所
吉井彌七君 内務省仙臺土木出張所
楊學庸君 滿洲冬天會立第一工科高級中學校
青山二郎君 中央電気會社

学 生 員 (入 會)

阿宗保治郎君 山梨高工
安藤昌三君 東京帝大
赤嶺英一君 山梨高工
天方正彦君 東京帝大

石井淳君 日本高工
泉山政一君 仙臺高工
今西克巳君 山梨高工
梅原春夫君 //

江口宏君 熊本高工
大塚新君 山梨高工
大塚全一君 東京帝大
大西清一君 //

岡本虎雄君 東京帝大
 岡本大一君 “
 長田篤樹君 山梨高工
 鹿島邦夫君 東京帝大
 柿沼龍次郎君 山梨高工
 金子收事君 東京帝大
 金澤良君 “
 河合秀夫君 “
 木村正治君 “
 佐藤信一君 仙臺高工
 猿田政弘君 山梨高工
 安戸長十郎君 仙臺高工
 芝原浩君 北海道帝大
 首藤安正君 山梨高工
 關野幾太郎君 山梨高工

田中行男君 北海道帝大
 高橋三郎君 仙臺高工
 高橋利一君 山梨高工
 高橋光雄君 東京帝大
 寺西弘治君 京都帝大
 戸邊勝之君 東京帝大
 中川治郎君 熊本高工
 新島賀君 東京帝大
 西畑勇夫君 “
 猫本俊幸君 日大工学部
 濱田三良君 東京帝大
 平井信一郎君 “
 廣田勲君 熊本高工
 布袋謙作君 東京帝大
 古川寛美君 熊本高工

増本隆三君 山梨高工
 松山爲男君 熊本高工
 丸安隆和君 東京帝大
 宮崎茂一君 “
 宮地卓藏君 “
 武藤一男君 日大工学部
 村上永一君 東京帝大
 村田清逸君 “
 八乙女盛男君 日大工学部
 矢鳥剛君 山梨高工
 山田利治君 徳島高工
 山田良一君 熊本高工
 吉永治夫君 仙臺高工
 加藤眞一君 武蔵高工

會 員 (転 格)

安藤四良君 大阪電気軌道會社
 青島茂一君 内務省清水港修築事務所
 青山泰晴君 東京市土木局河川課
 秋田玉三郎君 大阪市水道部下水課
 荒井珍雄君 慶尚北道廳山林課
 荒尾茂君 長野縣廳土木部
 新井止郎君 四國中央電力會社
 飯野延之助君 名鉄工務部工事課
 石川與一君 佐賀縣廳地課
 石田勇次君 慶尚北道廳土木課
 糸川一郎君 東京府土木部橋梁課
 稻垣茂雄君 北海土功組合
 小谷金馬君 株式會社問組
 小野久藏君 東京市水道局下水課
 小野竹之助君 大阪市港灣部
 小原巳代志君 鹿兒島港修築事務所
 小山繁三君 靜岡縣下田土木出張所
 尾内庄吉郎君 阪神上水道市町村組合
 大原朝三君 岩手縣廳土木課
 岡田保三君 大阪北港會社
 垣見俊一君 “
 瀧池浪流君 内務省神戸土木出張所
 川口達郎君 瀧鉄大連鐵道事務所
 川崎忠正君 京城市廳都市計畫係
 川又久夫君 大阪鐵道局工務部保線課
 河浦源次君 内務省鳥神流川改修事務所
 河原田重久君 名古屋鐵道局靜岡保線區

木津英二郎君 滿洲國土木局牡丹江建設處
 木畑穉君 株式會社問組
 岸川俊輔君 咸鏡南道廳土木課
 楠正治君 滿鉄白城子建設事務所
 桑原清君 京都府洛西三川改修事務所
 小石川清一君 九州水力電氣會社
 小玉末松君 滿鉄々道總局建設局計畫課
 小橋龜雄君 滿洲齊々哈爾濱市公署工務科
 小林武雄君 廣島市水道部
 小宮秀信君 滿洲吉林省公署土木課
 小柳誠君 中央電氣會社
 古賀國彦君 江原道江陵土木官區
 古藤爲之助君 東京府第四道路出張所
 後藤禎藏君 東京市土木局世田谷出張所
 高津俊久君 大阪市土木部計畫課
 近藤正雄君 秋田縣橋手川改良事務所
 近藤利八君 滿鉄々道總局工務局水道課
 佐藤信一君 群馬縣廳土木課
 佐藤盛亮君 “
 佐藤和吉君 關東州廳土木課
 齋藤千代雄君 東京府土木部河港課
 酒井清太郎君 愛知縣廳土木部道路課
 櫻井新二郎君 松尾鐵業所
 笹森巽君 鐵道省工務局改良課
 澤田壽君 山形縣長井土木出張所
 清水治長君 鐵道大臣官房研究所
 品川俊次君 京濱電氣鐵道會社

鳥田一夫君 滿鉄錦州建設事務所
 下飯坂武彦君 白石葦葦工業會社
 下村哲也君 滿鉄産業部交通課
 須内鼎五君 東鉄上野保線事務所
 陶山襄君 内務省東京土木出張所
 杉田勝衛君 朝鮮總督府内務局土木課
 鈴木三郎君 三重縣廳土木課
 瀨浦又藏君 和歌山縣田邊港修築事務所
 關嘉市君 中華民國廣東水利委員會
 關谷正雄君 山形縣米澤土木出張所
 曾根高恒君 日本電力黒部建設所
 田中勝君 岐阜縣木曾川橋梁建設事務所
 多田利治君 滿洲國島省公署民政廳土木科
 高田浩吉君 内務省横濱土木出張所
 高田順君 大分縣立日田林工學校
 高野一郎君 關東局大連民政署
 高島嘉雄君 株式會社大林組
 瀧山養君 鐵道省東京改良事務所
 竹中徳君 株式會社問組
 武田平七君 京都市松崎淨水場
 谷口勝君 樺太廳土木課
 玉井正彰君 内務省信濃川上流改修事務所
 玉川政吉君 東京市土木局杉並出張所
 恒次稔君 株式會社鐵高組
 寺向初君 滿鉄安東地方事務所
 富安寛君 小倉市土木課
 豊田治幸君 大阪府宮田林土木出張所

中江至彦君 下關市土木課
 中邨又男君 新潟縣廳土木部河港課
 仲義夫君 岐阜縣牧田川改修事務所
 長瀬新君 東京府第二道路出張所
 布川治夫君 朝鮮總督府內務局土木課
 沼田等君 東京市水道局擴張課
 長谷川直人君 滿鉄各道總局工務局改良課
 羽田巖君 宮崎縣廳土木課
 橋本芳廣君 滿鉄大連埠頭保線區
 服部外茂雄君 日本電力黑部建設所
 原田隆一君 合資會社三田組
 原田民部君 京都市廳土木部
 福井武弘君 熊本高等工業學校
 福島俊基君 滿洲國土木局圓筒建設處
 福西正男君 內務省博多港修築事務所

秋永規輔君 和歌山縣廳土木課
 荒尾宗夫君 鐵道省熊本建設事務所
 有泉文雄君 內務省宮土川改修事務所
 伊丹立夫君 群馬縣廳土木課
 池部春生君 滿鉄各道總局工務局保線課
 岩本定一君 滿鉄樺州炭礦採炭課
 裏地宏君 和歌山縣廳土木課
 大畑定夫君 神戸市土木部土木課
 加藤廣志君 名古屋市土木部
 喜内敏君 新潟縣廳土木部道路課
 木村與四松君 內務省鬼怒川改修事務所
 北村誠一君 大阪市水道部下水課
 久米次郎君 東京鐵道局工務部
 隅部正人君 朝鮮總督府內務局裡里土木出張所

淵田敏夫君 吳海軍建築部
 古谷信夫君 忠清兩道廳土木課
 北條次男君 滿鉄技術委員會
 牧野八郎君 臺灣下淡水治水工事事務所
 松浦不二夫君 大阪市電氣局
 松本喜三郎君 北海道釧路土木事務所
 松本鍊三君 島根縣蒲田土木管區事務所
 松山隆三君 富山縣廳土木課
 宮地武夫君 宮地鉄工所
 宮本萬之丞君 岩手縣廳地課
 室田玉治君 日本無線電信會社
 最上武雄君 東京帝大土木教室
 吉田茂雄君 株式會社大林組
 吉田英則君 北海道廳帶廣治水事務所
 和田勘三郎君 滿鉄大連保線區

准 員 (転 格)

郡司次夫君 三井鐵山會社
 小泉寅三君 海軍省建築局
 佐伯秀雄君 滿洲拓殖會社
 佐藤富文君 東京電燈釜川出張所
 齋藤哲市君 鐵道省東京改良事務所
 清水良夫君 大阪市電氣局
 篠原清君 逕信省電氣局水力課
 下平伊那三君 朝鮮總督府內務局裡里土木出張所
 調強君 三重縣廳土木課
 杉木隆二君 富山縣電氣局
 田中正夫君 阪神上水道市町村組合
 田村敏彌君 大阪市土木部道路課
 大刀顯君 朝鮮總督府內務局土木課
 瀧田治郎君

渡邊三省君 滿洲國龍江省公署民政課土木科
 渡邊正知君 三井鐵山三池鐵業所
 武田惣一郎君 大阪市水道部下水課
 野田道也君 北海道廳帶廣土木事務所
 東善郎君 滿鉄大連保線區
 森永鐵次君 滿鉄羅津建設事務所
 八尾孝次君 內務省七尾港修築事務所
 八束利敬君 愛媛縣廳土木課
 矢野勝正君 京都市廳土木部道路課
 柳井二郎君 大阪府土木部岸和田出張所
 大和太次君 滿洲國土木局齊齊哈爾建設處
 山形一美君 滿洲奉天省公署土木課
 山本芝鶴君 合資會社山本組
 吉井隆君 廣島市土木部都市計畫課

辰野憲次君 日本化学工業會社
 谷垣精一君 滿鉄各道總局工務局改良課
 中川正雄君 東京市水道局擴張課
 中村毅君 大阪市土木部道路課
 中村信周君 鐵道省建設局工務課
 長尾喜隆君 株式會社大林組
 野呂俊夫君 三菱礦業會社
 埴原文彌君 內務省樺州土木出張所
 福島公三君 大阪鐵道局工務部改良課
 水野昌治君
 村上眞造君 朝鮮總督府內務局土木課
 村田正元君 株式會社間組
 山本三男君 宇治川電氣株式會社
 渡部武四郎君 仁川府廳土木課

土 木 学 會 々 員 數

(昭和 12. 5. 17 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
2 968	2 858	581	3	21	6 376

映 畫 の 夕

別項の如く昭和12年6月3日帝國鉄道協會に於て本會の映畫の夕を開催した。今回は前例を破り家族同伴と言ふ事であつたので婦人の方も多數見えて滿員の盛況を呈した。

先づ保線=ユースの“白魔征服”に就て會員鉄道技師山田二三男君より次の如き講演あり映畫に就ては青木武雄君の解説があつた。

只今から御覽に供します映畫“白魔征服”に就て聊か梗概を御説明申上げます。

この映畫は 鐵道省工務局保線課に於て製作しました保線=ユース第2回作品でありまして、北海道の深川附近を中心として今年の2月中旬から下旬にかけ撮影したものであります。

保線=ユースと申しますのは保線に關した凡ゆる=ユースや、地方の特殊事情や、特殊作業等を撮影編輯して、保線従事員相互の參考に供する一方更に廣く世人に對し餘り知られて居らぬ保線業務の重要性や保線従事員の勞苦を認識せしむる爲に製作されつゝあるものでありまして、この“白魔征服”に於ては常夏の國に住む人々には思ひも依らぬ白魔の跳梁に責め苛まされる雪國の保線従事員の苦闘を劇的に仕組んで目のあたり展開せしめようとするものであります。

雪害を受ける線路は國鉄約2萬軒の中、北陸、山陰、東北、北海道に亙る約8000軒で全國の約40%に相當します、御承知でも御座いませうがこの雪害には一夜にして列車を不通にせしめる降雪、一瞬にして列車を立往生せしめる吹雪、一舉にして列車を埋没、顛覆せしめる崩雪等があります。

毎年この雪害を征服し列車を安全に運行せしめるた

ロータリー-雪櫃車運轉狀況



めに要する費用は莫大なもので平均毎年138萬円程度 昨年の如きは實に216萬円の巨額に達して居ります。

私はこの雪害を名づけて“冷い熱病”と稱して居ります。

かうした巨額を投じて除雪し列車を運轉させても3月末頃ともなれば雪は消えて春光麗かに自然はかつての猛威を忘れたかの様に微笑みかけます。残るは冬中雪にしひたげられ通して弱りきつた線路だけでありませぬ。

丁度熱病に罹まされた病人と同じ様に折角お金をかけても元通りにはなりません。

この冷い熱病の手當即ち除雪方法には人力除雪と機械除雪とがありまして、人力除雪は構内や切取の深い箇所や機械除雪の効果を助成する等のために行はれ、機械を原則として除雪をしてをります。機械には御存知の如くラッセル式、廣幅式、搔寄式、回転式と4通りあります。

之等の機械は皆機關車によつて押したり、引いたりするもので自らは走行する力はありません。

尙近來流雪溝によつて人力を節約し機械力の能率を昂める施設が普及して参りました。

只今申上げた人力にしる機械力にしる總て映畫で御解りになります様に線路保守の全責任をもつてゐる保線區長の發動によつて終始されるものでありまして、ラッセルにしる廣幅にしる搔寄、回転何れも保線區従事員の操縦によるものであります。

吹雪の夜一寸先も見えぬ闇についてラッセルを操縦する保線従事員の心境は正に敵軍を目前にして突撃する戦場の兵士と何ら異なる所のない勇壯なものであります。

誠に拙い映畫ではありますが“我等保線従事員が守る線路だ列車よ安心して走れ”と云ふのがこの映畫の云はんとする所であります。

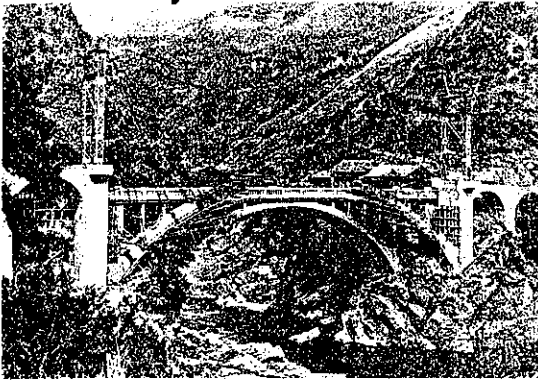
では當保線課青木技手の説明によりまして皆様と思ひも寄らぬでありませう保線従事員の活躍振りを御覽に供します。

皆様の忌憚なき御批判を得ば望外の幸せと存じます。続いて“君が代の由來”によつて觀衆の襟を正さしめた後、日の影網ノ瀧鉄筋コンクリート拱橋のケーブルエンクジョンの實況を線畫説明入トーカーによつて映寫した。その架設概要は次の如くである。

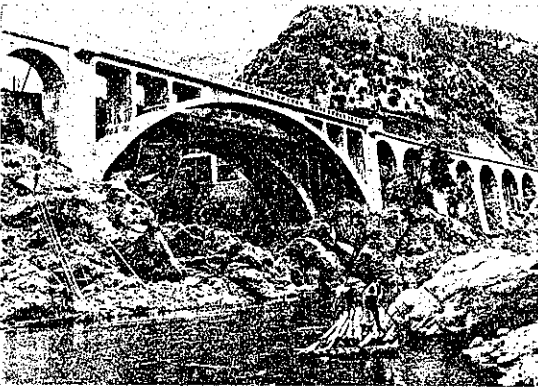
型式：Open Spandrel Hingeless Arch

径間：45m, 拱矢：9m,

工事中の網ノ瀬拱橋



竣工せる網ノ瀬拱橋



設計荷重: K. S.-15

拱軸線形状: Transformed catenary

コンクリートの許容曲げ圧縮応力: 80 kg/cm^2

本拱橋に採用したケーブルエレクションの概要は次の如くである。

- (1) 兩岸に近い起拱附近は地上に足場を組立て、施工す。
- (2) この拱の一部に鉸の設備をなし、爾後施工中の拱軸の位置整正及施工荷重に依る曲げ廻転を円滑に行はしめ、且つ施工応力の作用点を明瞭ならしむる。
- (3) 拱橋基礎上に鉄塔を建込み、控索を他の既設橋脚の基礎に碇着せしめる。鉄塔の下部は鉸構造とし、控索は伸縮調節の爲トッグル及ターンバックルを設備し、鉄塔の傾きを加減し得る様にする。
- (4) 兩鉄塔間に運搬索を架け渡し材料の運搬に供する。
- (5) 第1項の拱の先端を鉄塔頂より吊る。吊索は伸

張を加減する爲にターンバックルを挿入する。

(6) 別に準備した假枠を前項拱に碇着せしめ、其の大部分を前方に突出させる。

(7) 假枠中に型枠を組立て、コンクリートを填充する。

(8) コンクリートの硬化を待ち、其の先端を鉄塔より吊り假枠を前方に移動し、第6項の如くコンクリートに碇着させる。

(9) 以下同様の方法で兩岸より順次に施工を繰返す。

(10) 拱頂は拱軸を整正してから temporary hinge を作り施工す。

(11) コンクリートの硬化後、假枠及吊索を撤去する。

(12) 中央拱完成後、豫め此の下面に埋め込んだボルトに横桁を吊り、此の上に型枠を組立て、施工応力を考慮して兩側拱を分割施工する。

(13) 拱頂の temporary hinge を填充して拱を一先づ two hinged arch にする。

(14) 脚壁は拱の施工応力を考慮して順次施工する。

(15) 起拱點附近の兩側の鉸を填充して、拱を hingeless arch とする。

(16) 床版、手摺を施工し、防水工を施す。

引続いて朝日新聞社の提供せる英國皇帝陛下戴冠式の盛儀と朝日世界ニュースを撮影して午後7時40分盛會裡に散會した。

中華民國土木技術者視察團の招待會

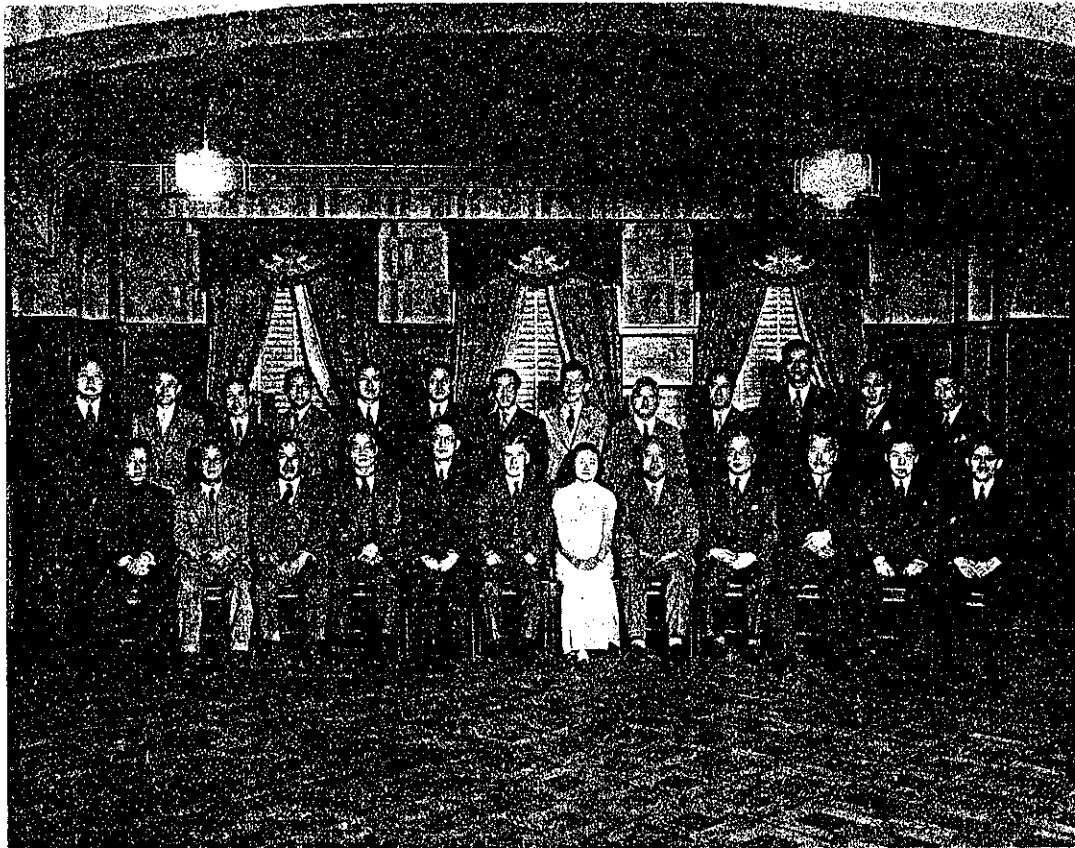
曩に本會に於て歡迎會を催した中華民國視察團一行は第23卷第6號時報欄に於て紹介した様に東北、北海道方面の視察旅行を終へて、關西方面へ向ふ途次本會對する答禮の意味で本會關係者(下記)を丸ノ内會館に招待して懇親會を開催した。

先づ汪團長は本會並に視察團所關係者に對する鄭重なる謝辭と視察の模様就て述べ大使館員汪武氏は之を極めて流暢なる日本語に解譯し、次で會長立つて兩國の技術的提携を高調し併せて謝辭を述べ視察談其の他感想等を語り合ひ時の移るのを忘れ、やがて一同紀念撮影の後散會した。

中華民國視察團氏名：汪胡楨同夫人，張倫官，許止禪，萬普，劉念茲，杜聯凱王元顯

本會よりの出席者：大河戸會長，新井副會長，宮本，沼田，關各理事，河西，小澤各常議員，眞田前會長，山中，正子，末森，山崎，山口各東亞部員，鈴木大井川電力監査役，柴原書記長，渡邊囑託

中華民國視察團記念撮影



會 告

伊能忠敬翁遺物保存館建設寄附金募集

我國測量学の先覺伊能忠敬翁の偉業は夙に人口に膾炙する所にして千葉縣佐原町に於ける翁の舊宅は特に史蹟として指定せらる、而も伊能家その他に所藏せらるゝ翁の幾多貴重なる遺物遺品は未だ永久的保存の方途を講ぜられざるを遺憾とし伊能忠敬翁功績顯彰會に於ては茲に翁の遺物保存館を建設して現在伊能家に所藏せらるゝ遺物を之に移管すると共に汎く遺品の蒐集を行ひ之を永久に保存すると同時に一般の觀覽に供して翁が不滅の偉業を後代に傳へんことを計畫せられたり。

本會は右の趣旨に賛同し左記に依り本會 6 000 會員諸賢の御援助の下に本目的達成のため微力を盡さんとす。庶はくば奮つて御賛同を賜らんことを。

記

1. 寄 附 金 額: 一 口 金 1 円 以 上
1. 拂 込: 別紙振替用紙(振替料金學會負擔)にて最寄の郵便局に拂込まれたし
1. 寄 附 金 取 扱: 土木學會 東京市麴町區丸ノ内 3 ノ 6 電話丸ノ内(23) 3945

以 上

昭和 12 年 4 月

社團法人 土 木 学 會

會長 工学博士 大 河 戸 宗 治

會 告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員			
荒川 參太郎君 森 増 能君	稻 葉 彌 吉君 山本保之助君	木村貫一郎君	小 林 源 次君
准 員			
和 泉 高 巖君 大 森 鶴 吉君 小 林 義 雄君 船 橋 貞 一君 中野順太郎君 濱崎 禎 四郎君 横 田 清 治君	池 田 乙 次 郎君 佐 藤 與 吉君 野 口 金 太君 高 橋 理 三 郎君 難 波 壽 一君 平 本 源 太 郎君 石 原 三 郎君	池 田 角 太 郎君 徐 三 善君 關 佳 夫君 本 橋 二 郎君 吉 田 二 億君 水 原 譽 文君 齋 藤 賢 策君	緒 方 政 雄君 栗 田 忠 治君 曾 我 進君 吉 見 胤 隆君 劉 作 禮君 宮 田 肇君 多 田 安 三 郎君

時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- 土木工事の計畫，設計，施工の進捗，竣功の狀況，金額等のニュース
- 土木工学界の内外学協會，調査會，委員會等の設立，調査研究事項並に報告其他會議，催物の簡單なる紹介
- 官廳，會社，公共團體の組織，事業に関するニュース
- 法規，示方書，規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学，土木工事，土木學會，土木技術社會に對する批判，時評，感想，希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。

會 告

土 木 工 学 用 語 集

内 容

本文約 500 頁

索引約 300 頁

(英獨佛各別)

装 幀

總クローズ上製

菊半裁判



實物見本(縮寫)

定 價

2 円 50 錢

會員に限り

特 價

2 円 25 錢

東京市内 12 錢

内地 15 錢

臺灣・樺太
朝鮮・滿洲 19 錢

留
小包料

部 門 別

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 応用力学 | 2. 水理 | 3. 測量 |
| 4. 河川 | 5. 砂防 | 6. 發電水力 |
| 7. 上水道 | 8. 下水道 | 9. 港灣 |
| 10. 道路 | 11. 橋梁及構造物 | 12. 軌道 |
| 13. 鉄道 | 14. 都市計畫 | 15. 材料及施工法 |
| 16. 土木機械 | | |

本書は從來の諸種の辭典は勿論他学科の用語集等と全く趣を異にし日英獨佛の4箇國語を網羅し各語に就て簡明なる定義解釋を附し時代の要求に全く適應せしめたものであります。

土木關係者は勿論一般好學の士は必ず座右に供へられんことを希望致します。

會員に限り特價を以て頒布致します、御希望の方は本會宛御申込下さい。

會 告

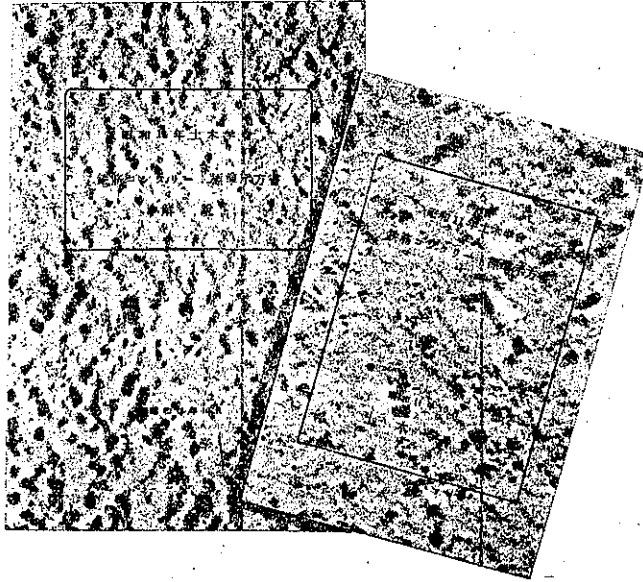
昭和 11 年 土木学会 鉄筋コンクリート標準示方書及解説

示方書

四六版

解説

菊版



定價

示方書と解説

2冊にて1円

送料

會員に限り

学会負擔

昭和6年に制定致しました土木学会鉄筋コンクリート標準示方書は既に5ケ年を経過し、その内容に於て改訂を要する點が多いことを認め本會コンクリート調査委員會に於ては之が調査研究中であります。差當り術語を工学会規定の用語に、骨材試験用の篩を日本標準規格に改め、参考篇を挿入して昭和11年版を發刊致しました。

今回は特に携帯に便利なる様製本し、定價も示方書と解説2冊にて1円の特價にて頒布することに致しましたから御希望の方は本會宛御申込を願ひます。

土 木 学 會

會 告

本會は技術出身の企畫廳調査官を任命せられむことを下記の通り建議せり。

建 議

本會ハ技術出身ノ企畫廳調査官ヲ任命セラレム事ヲ望ム。

理 由

政府ガ曩ニ内閣調査局ノ内容ヲ擴充シテ之ヲ企畫廳ニ改メ以テ諸般ノ制度機構ノ改正、各種ノ政策施設ノ統合ヲ図ラル、ニ到リタルハ誠ニ機宜ノ措置トシテ國運進展ノ爲慶賀ニ堪ヘザル所ナリ。

然ルニ企畫廳ノ干與事項中ニハ國力擴充ノ基本國策トシテ技術的立案畫策ニ基ヅカザルベカラザルモノ尠カラズ、此ノ爲ニハ技術出身ノ調査官ヲ任命スルノ必要切ナルモノアリト認ム。依テ本會ハ政府ニ於テ速ニ技術出身ノ企畫廳調査官ヲ任命セラレム事ヲ望ム。

右本會常議員會ノ議ヲ經テ及建議候也

昭和 13 年 6 月 22 日

社団法人土木學會

會長 工学博士 大河戸 宗 治

内閣總理大臣 公爵 近 衛 文 麿閣下
内 務 大 臣 馬 場 錠 一閣下
陸 軍 大 臣 杉 山 元閣下
司 法 大 臣 鹽 野 季 彦閣下
農 林 大 臣 伯爵 有 馬 賴 寧閣下
遞 信 大 臣 永 井 柳 太 郎閣下
拓 務 大 臣 大 谷 尊 由閣下
企畫廳總裁 廣 田 弘 毅閣下

外 務 大 臣 廣 田 弘 毅閣下
大 藏 大 臣 賀 屋 興 宣閣下
海 軍 大 臣 米 内 光 政閣下
文 部 大 臣 安 井 英 二閣下
商 工 大 臣 吉 野 信 次閣下
鐵 道 大 臣 中 島 知 久平閣下
内閣書記官長 風 見 章閣下
法 制 局 長 官 瀧 正 雄閣下

會 告

本會は第十二回オリンピック東京大會構築に關する委員會の構成に土木技術家を參加せしめられむ事を下記の通り建議せり。

建 議

第十二回オリンピック東京大會構築ニ關スル委員會ノ構成ニ土木技術家ヲ參加セシメラレム事ヲ望ム。

理 由

第十二回オリンピック東京大會ハ我國ノ文化ヲ世界ニ紹介スベキ絶好ノ機會ナルヲ以テ、大會ノ執行並ニ其ノ準備ニ就テハ舉國其ノ任ニ當ラザルベカラズ。惟フニ大會關係施設ハ其ノ關係範圍廣ク且ツ相互ノ關聯亦極メテ複雑ナリ。之ヲ競技場ノ建設ニ就テ見ルモ土木、建築等各種ノ技術ノ綜合協力ヲ要シ、就中土木技術ニ關シテハ、地盤ト排水、大土工ノ進捗ト構築順序ノ決定等ニ就キ細心ナル檢討ヲ要シ、更ニ一般交通上ノ諸施設即チ廣場、駐車場、街路、鉄道等ノ土木事業トノ緊密ナル關聯事項アリ、依テ學會ハ曩ニオリンピック大會土木施設調査委員會ヲ組織シ各般ノ關係事項ニ就キ既ニ専門的研究ヲ進メツ、アリ、是即チオリンピック東京大會ノ遂行ヲシテ遺漏ナカラシメ、以テ此ノ舉國的事業ノ円滿ナル遂行ヲ希望スルガ爲ニ外ナラズ。

本會ハ此ノ見地ニ立チ構築ニ關スル委員會設置ニ際シテハ之ニ權威アル土木専門委員ヲ參加セシメラレムコトヲ要望ス。

右本會常議員會ノ議ヲ經テ及建議候也

昭和 12 年 6 月 22 日

社團法人土木學會

會長 工学博士 大河戸 宗 治

文部大臣 安 井 英 二閣下

第十二回オリンピック東京大會組織委員會會長 公爵 徳川家達閣下

會 告

本會はオリンピックマラソンコースとして新京濱國道を最適と認め下記の通り建議せり。

意 見

本會ハオリンピックマラソンコーストシテ新京濱國道ヲ最適ト認ム。

理 由

マラソンレースハオリンピック大會諸競技中最重要行事ノ一ナルヲ以テコースノ選定ニ當リテハ特ニ慎重ヲ期セザルベカラズ。

惟フニコース選擇ノ標準ハ一般交通ニ對スル障害少ナキコト、鉄道トノ平面交叉ナキコト、相當ノ幅員ト路面構造トヲ有スルコト、勾配ノ變化アルコト、南北路線ナルコト等ノ條件ニヨル。是等ノ條件ヲ満足スベキ街路ハ別紙參考圖ニ示ス如ク新京濱國道並ニ之ト主競技場トヲ連絡スル都市計畫街路ヲ措キテ他ニ求メ難シ。

新京濱國道ハ幅員二二米乃至二五米昭和十六年竣工ノ豫定ヲ以テ既ニ着工セラレアリ。之ト主競技場トヲ結ブ都市計畫街路ハ幅員二一、八米乃至二五米ニシテ既ニ市長執行事業トシテ豫算ノ成立ヲ見、一部竣工セリ。

是等ノ新設街路ヲマラソンコーストシテ利用スル爲ニハ關係事業廳ニ於テ事業年度ノ一部線上ヲ行フヲ以テ足り、凡テノ方面ニ關シ最モ適當ナルヲ以テ、至急主文ノ通り決定セラレムコトヲ要望ス。

右本會常議員會ノ議ヲ經テ意見書及提出候也

昭和 12 年 6 月 22 日

社団法人土木學會

會長 工学博士 大河戸 宗 治

文部大臣 安 井 英 二閣下

第十二回オリンピック東京大會組織委員會

同

同

同委員 嘉納治五郎閣下

同 堀内謙介閣下

同 石渡莊太郎閣下

同 山本五十六閣下

同 平澤 要閣下

同 松 永 東閣下

同 大久保留次郎閣下

同 事務局長 工学博士 男爵 久保田 敬一閣下

會 長 公爵 德 川 家 達閣下

副會長 東 京 市 長

副會長 大 島 又 彦閣下

同委員 伯爵 副 島 道 正閣下

同 廣 瀬 久 忠閣下

同 梅 津 善 治 郎閣下

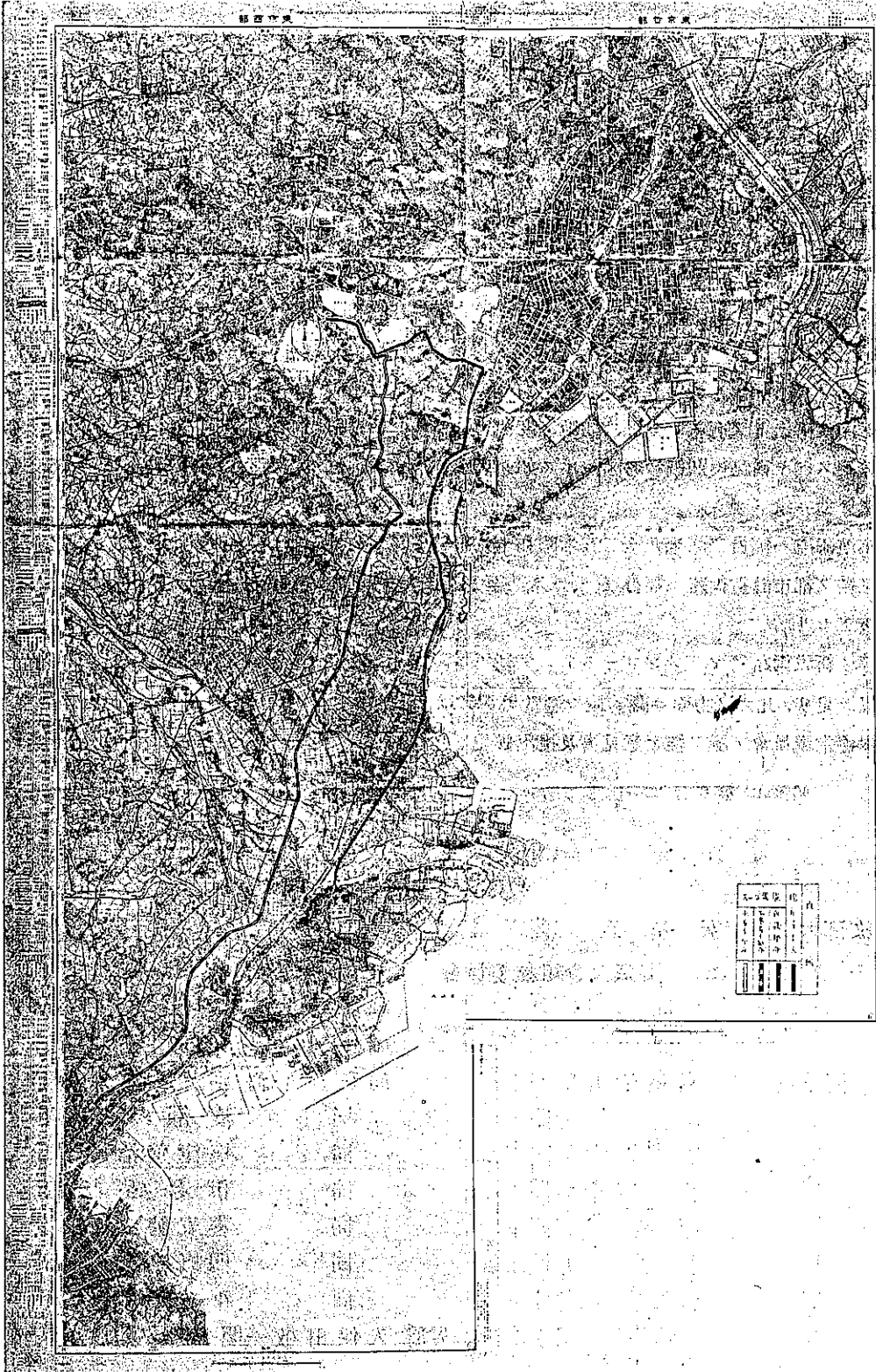
同 伊 藤 延 吉閣下

同 喜 安 健 次 郎閣下

同 門 野 重 九 郎閣下

同 平 沼 亮 三閣下

マラソンコース参考図(新京浜国道)



會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し滞なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。發行後數ヶ月経過しての照會は時に残部皆無となり配布不可能の場合があります。

會誌編輯委員

委員長	關 信 雄			
委 員	伊 藤 信	稻 葉 通 彦	大 岡 禮 三	大 川 一 郎
	太 田 尾 廣 治	岡 崎 三 吉	菊 池 明	野 坂 孝 忠
	廣 瀬 孝 六 郎	安 宅 勝		

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

巻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	—	1.00
18	—	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19	*	*	*	—	—	*	*	*	*	—	—	—	1.00
20	*	*	*	*	—	—	—	*	—	—	—	—	1.00
21	—	—	—	*	*	—	—	—	*	—	*	*	1.00
22	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
第 20 巻第 12 號	(創立 20 周年記念號)												1.50
第 21 巻第 7 號	(會誌索引付)												1.30
震害調査報告書(1,2,3)												18.00
応用力学聯合大會講演集												1.00
鉄筋コンクリート標準示方書												1.00
同上	解説												1.00
土木工学論文抄録												3.50
土木學會誌索引(第 1 巻第 1 號—第 20 巻第 12 號)												0.50
昭和 9 年關西地方風水害調査報告												1.80
土木工学用語集												2.50 (送料別)

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 円	1 回半頁	20 円
指定廣告	裏表紙 3 面對 向及廣告初頁	1 回 1 頁	40 円	
		裏表紙 3 面	1 回 1 頁	70 円
		色アート	1 回 1 頁	60 円

- 指定廣告は凡て1箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす
- 廣告に寫真版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

會 告

図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時、
自1月4日至7月20日

但し 日曜日及祭日休。

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(價物大)

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXIII, NO. 7, JULY, 1937.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	69
Addresses.	
Public Works in Europe and America. <i>By Teruo Yamasita, C, E., Member.</i>	667
About the Bridges I saw in Foreign Countries. <i>By Takeo Hori, C, E., Member.</i>	677
Papers.	
The Adi-Kawa Tunnel. <i>By Namiki, Fukutomi C, E., Member.</i>	689
Ogôti Dam for Tokyo Municipal Water Works. <i>By Motoki Ono, C, E., Member.</i>	697
On the Required Sectional Area of a Bridge-Member Subjected to the Alternating Stresses. <i>By Yutaka Tanaka, Dr. Eng., Member.</i>	703
Similarity of Rotating Liquids about Vertical Axis. <i>By Kikutarô Otubo, C, E., Member.</i>	709
On the Wet Mortar Test of Cement. <i>By Takatada Nozaka, C, E., Member.</i>	717
Notes on Matters of Interest.	725
Current Notes.	731
Abstracts of Selected Articles.	741
Patent News.	773
New Publications.	777

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.